

なきごえ



1975

9

大阪市
天王寺動物園協会

動物と私

石田 孝之

先づ最初にお断りしておく必要がある。私は今でこそ「動物サロン」の準備をしたり、WWFのお世話をしたり、挙句の果ては「盲蛇に怖じず」で動物園のガイドブックを書こうとしたりして、深く動物のことにかゝり合っているが、それもこゝ近々数年来のことであり、その前は全く動物とは何の縁もない社会科学一辺倒の道を歩いてきた者である。自然科学は私にとっていつも遠い世界の出来事であり、とりわけ動物学に至っては、愉しそうには違いないが幻のような存在としか考えられなかった。貧しい髪結いの子として生まれ、戦後の混乱期に多感な青年時代を送った私が、「人間の貧しさ」を問いつけて、経済学とそれに深く関連する歴史学に入っていたのは至極自然のことであった。(当然のこと乍らレールは日の当らぬ場所に敷かれていたが…)

現代—中世—古代(日本史)と辿って行った私はその先の考古学の世界も覗いて見なければ気がすまなかった。そしてこゝで停っておけばよかったのだ。こゝまでが人間の世界であった。好奇心が強すぎるのが少年時代からの悪癖である。その先にヒトの世界があったのである。一度この領域に迷い込むと、もう止めどがない。ピテカントロプスやオーストラロピテケスがいた。ヒトの痕跡が絶えると恐竜が現れ、アンモナイトにつき当った。こゝまでエスカレートしてうとうともう後はいうこともない。進化論に導かれて反転が始まり、一直線に哺乳類にに来了った。

不幸はこゝに極まった。哺乳類から一步も動けないのである。鳥・魚・昆虫の類はどれも私を惹きつけない。動物が好きだと言ってもこれでは全く片輪である。好みが常に不変でないことはよく知っているが、いつの日かメジロやトンボをシカより好ましく思う日が来るのだろうか。頑固なようだが私には

どうしてもそうだと
は思えない。

閑話休題。そろそろ表題の「動物サロン」に就て書かねばならない。簡潔に言おう。それは動物について学び、動物とヒトとそれをとりまく自然を守るための図書館である。当然のことながらこゝには動物科学とそれをとりまく関連諸科学(植物・地学・考古学・山岳・民族・地誌・紀行etc.)が含まれる。勿論「サロン」は話をするところである。こゝでは対話が自由であり、そして必要とされよう。従来の図書館ではこれはタブーでもある。

小さくてもいい、と思っている。それは皆だから。皆は序々に大きくなり、それは動物たちの「サンクチュアリ」となる。

WWF J (世界野生生物基金日本委員会) 会員
尼崎市

お知らせとお願い

サロンには現在約1500冊の図書があり、未だ開館準備中ですが、皆様方の御利用はOKです。場所は下記で国鉄立花駅下車、徒歩約7分のところ。閲覧・貸出し等存分に御利用下さい。

尼崎市水堂鳥林1095-5
「動物サロン」 石田 孝之
TEL 06-418-6486

表紙の写真説明

「マナヅル」
日本では特別天然記念物の貴重なツルです。昨年8月に上海市西郊公園との動物交換で当園にやって来たものです。



“いらっしゃい！マレーバク！！”

当園では戦後初めてやって来たマレーバクです。
7月15日に入園しました。約1才半ほどのオスで、元気一杯です。

なきごえ9月号もくじ

動物と私	2
マレーバク	3
動物園グラフ	4・5
動物飼育係の思い出	6・7
天王寺のどうぶつたち(8)	8・9
獣医室から④	10
動物園ニュース	11

動物園グラフ



キジ舎の一角



中獣舎（オオカミ類）の前

“園内の緑陰”

残暑おみまい

申しあげます。

9月に入ってもまだまだかなり暑い日が続きますが、今回は園内の涼しい緑陰をグラフにまどどくしました。



高速道路下の緑陰歩道



カバ舎前



ライオンとシマウマの放飼場の間



ゾウ舎前



サイ舎前



ツル舎前

7・8月の動物園日記

- 7/24. アグーチが1頭生まれました。
- 25. ハイロカンガルーの仔が初めて袋から外へ出ました。
- 26. ライオンが4頭生まれました。
ミドリザル1頭の寄付がありました。
- 28. ショウジョウインコ1羽の寄付がありました。
台風シーズンを前にフラミンゴの羽切りを行いました。
- 30. キノボリカンガルーが暑さのため、少々バテ気味

です。

クロヒョウが交尾しました。

- 8/1. サマースクールを開催しました。
- 2. スジオナメラが2頭ふ化しました。
- 3. チャボ10羽の寄付がありました。
- 4. オオヅルが1羽ふ化しました。
今年生まれたシュバシコウが1羽衰弱気味のため、収容して強制さし餌をしています。
クロカモシカ、ミーアカットなど11種類の動物が新しく入りました。

- 6. ベンガルヤマネコが3頭生まれました。
今年生まれのハナグマの尾の先がすれきれて化膿しているため治療しました。
- 7. 集中豪雨のため、動物舎の一部が一時浸水しました。
- 9. シロクマが回虫をわかしているので駆虫をしました。
アシカの仔の体重測定をしました。
- 10. キングペンギンが産卵しましたが、1羽だけのた

め無精卵ですので取りあげました。

- 11. かねてより治療中のクロクビコウのメスが趾瘤症の悪化のため死亡しました。
- 18. タヌキ1頭の保護預りがありました。
- 20. フクロウが1羽目をいためているので治療しました。
- 22. 台風6号が接近して来たため職員20名が泊りこんで警戒態制をとりました。
- 23. 台風のため園内の樹木が約60本倒れました。

動物飼育係の思い出

永田 恵

私は動物園に於ける数多くの動物を友として親しんで参りました28年間の出来事を思い起こしつつ、筆をとりました。



一般に動物というものは、飼育する人に従順であり、又その信頼も絶対的なものであります。それ故に私は動物飼育というものに一生を捧げてみようと思ひ、昭和23年1月4日、飼育係として、この道に第一歩を踏み入れました。



②20年前の猛獣担当の頃

この時代はまだ戦争という悪夢の影響下であり、動物達にとっても、人間社会と同じ食糧難の時代でありました。この時代を生き抜いた動物は、日本鹿、猿類、豚、猪、ひとこぶらくだ、狐、水禽等でありしかもごく少数でありました。その中でも今現在、元気な姿で入園者にお目みえのエミュは当時（昭和12年4月）の金額に致しまして240円で購入されたといわれています。けれども生き抜いた動物は少数であれ、それは大阪市民の財産であります。

それ故、私達の使命は如何に長生きさせ、如何に繁殖させるかという点にありました。そこで飼料の自給自足を計るべく園内に野菜畠を作りましたが、しかしながら自給自足などは夢物語でした。そこで

私達飼育係は不足分を補うため、朝5時になると公設市場に出向いたり、市街に動物の飼料とあるものはと探し歩いたものです。が、今となっては最も良き思い出の一つです。こんな中にも嬉しい事がありました。それは春の訪れと共に昭和25年4月15日：現在も人気の的になっている象の春子さんが、はるばる海を越えタイの国からやってきました。



③ゾウの入園（サンケイ新聞社撮影）

この象の春子さんを一目見ようと連日大変な入園者の数でした。今尚、この記録は維持されているそうです。少し遅れてこの年の初夏6月5日に百合子さんの入来です。余談ながら当時の金額で春子さん75万円百合子さん50万円と記録されています。

続いて翌、昭和26年5月31日にはチンパンジーのシュジーちゃんが入園。シュジーちゃんを担当された狩野さんは連日訓練されたお蔭で自転車乗り、竹馬乗り、食事のマナー等を完全にマスターしました。

これらの芸を園内の特設ステージで実演させました。すると人気は今までの象の春子さん、百合子さんからチンパンジーのシュジーちゃんへと受け継がれました。はなやかなシュジーの芸、その反面、



④百貨店で夏服を選ぶシュジー（サンケイ新聞社撮影）

暗黒のような食糧難。戦後の日本を象徴しているかのように。けれどもこの頃より徐々として動物の世界にも食糧難が解消され初めました。

けれども充分である筈などありません。残念ながらこのことは今も何ら差異ありません。

翌昭和27年には、動物増加のラッシュを見ました。1月7日、ライオン♂1頭、5月1日類人猿オランウータン♀1頭、10月10日河馬♀1頭と相次いで、入園し俄に動物園は活気づき充実しはじめました。初めて接する動物ばかりなので、夜を徹して一連の行動、習性等を把握しようと観察したものでした。

遠く故郷を離れ、肉親とも離れ、友共も離れ、生まれ育った自然とも離れ、孤独の檻の中の生活が始まる動物達。この動物達に少しでも住み良い環境であり得るように細心の注意を払うとともに、言葉を知らない動物達の心の友として信頼される飼育係になれるように、日夜、努力を払ったものでした。

この様な次第で新たな若い動物達が増加すれば次には繁殖ということが問題となるのです。繁殖させる為には、余り年令的に差のないオス、メスでなければならぬのです。その結果、野生動物の出産、哺乳等の珍しい貴重な体験を初めてする事が出来ました。

これからが飼育係には大変なのです。父と母子を別居させなければならぬのです。父と母子を別居させても哺乳は充分か否か、排出物の処理はどうか等が心配となり、勤務が終わり帰宅後も心配のあまり真夜中に動物園に足を向ける事も数え切れない程ありました。次に自分の力で餌を食べる程に成長致しますと、今まで別居させていた父と同居させるのです。当時は野生動物の出産という事は非常に珍しいことでありましたので、報道機関を通じて一般の人達も関心を持っておられましたので、父子対面、同居の段になり万一の事でもあれば憂いで前日は寝られない程興奮致すこともしばしばでした。けれどもこの事が、とりもなおさず私達飼育係にとって最大の喜びであると同時に心配事でもありました。

それから動物の妊娠期間についてですが、人間はほぼ十月十日前後とされており、動物は種類によって、犬、猫等は57～60日前後、猿類におきましても蟹喰い猿は165日～170日、オランウータン、チンパンジーは233日～250日前後と異なってい

ます。特に妊娠期間の長い黒犀の540日～550日前後、印度象は黒犀よりも約100日長い630日～640日前後と言われています。それ故、象は動物の中では最高ではないでしょうか？

動物の中にも仔を生みばなしで哺乳すらない親があります。そんな時親と別居させ担当の飼育係の方が、親代わりをつとめ、体温の維持、排出物の処理等を2時間間隔で行い育てるのです。離乳後は、その動物の見合った食べやすい餌を与え、生長すると親と同居させる段となるのですが、動物によっては、二度と同居できないものが多いようです。

この点が、動物の動物たる由縁であり、人間との違いではないでしょうか。

最近ペットブームで一般家庭におきましても盛んに動物を飼われるようになりましたが、生長し体が大きくなりますと家庭では収容しきれなくなり、最後の手段として動物園に持参される方も中には、おられます。純真な動物の心を知る人ならば、一生をみとどけてやるのが、本当の愛情ではないでしょうか？

我が天王寺動物園は大阪市のほぼ中心部にあたり園内の一部を高速道路が縦断しており、車から出される排気ガスや、産業の発展に伴う、空気の汚染等



⑤バクと別れをおしむ永田氏

でより一層、動物の健康管理に細心の注意を払っております。限りなき愛着をもち、良き理解者である皆様方のご協力を心からお願い申し上げますと共に物言わざる動物達に幸あれかしと願いつ、筆をおきます。拙い句ですが今の私の心境です。

流れ行く、水の重さもわからねど
職友と歩みし、二十八年。
(とも)

天王寺のどうぶつたち (8)

シュバシコウ

天王寺動物園へ中央門から入って、ななめ右の方へ 200m ほど進むと大きな金アミのケージがあります。これが天王寺動物園のじまんの動物舎の一つである「大水きん放養舎」です。(水きんというのは水鳥のことです) このフライングケージはたて、よこが26m×29m、高さが12mもあって、今、この中には約55種、200羽もの鳥たちが飼われています。この200羽の鳥たちの中でひとときわ大きくて美しい鳥が今月お話しするシュバシコウです。

シュバシコウはクチバシ(ハシ)がシュ色をしているコウノトリなのでこう呼ばれます。また、シュバシコウはヨーロッパコウノトリとも呼ばれます。みんなもよく知っているようにヨーロッパでは赤ん坊を運んでくる鳥、しあわせを運んでくる鳥といわれているのがこのシュバシコウです。高い屋根やえんとつのでっぺんの巣にいるシュバシコウを一度は写真などで見たことがあるでしょう。天王寺のフライングゲージの中にも高さ6~9mの間に全部で6ヶ所の巣があります。ここで卵を産みヒナを育てるのです。



①エサのフナをヒナに与える親鳥

昭和36年12月25日、オランダからひとつがいのシュバシコウが送られてきました。そして3年後の39年、日本では初めてのヒナがかえりました。そしてこのことに対して日本動物園水族館協会から繁殖賞という賞をいただきました。この賞は日本で最初に繁殖させた動物園に与えられるもので非常に名誉ある賞なのです。

年 度	S										合計	
	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48		49
巣 の 数	1	1	1	1	2	4	5	5	4	4	6	
産んだ卵の数	5	5	6	6	-	17	15	25	15	20	21	135
かえったヒナの数	4	2	5	4	-	11	7	5	10	-	8	56
育ったヒナの数	1	1	3	3	2	4	4	2	3	7	0	37
現在の羽数	2	3	4	7	10	12	16	20	21	21	22	27

表のように昭和39年以来毎年順調にヒナが育っています。昨年は病気のためにダメでしたが今年はまた7羽が元気に育っています。初めはオランダから来た2羽だけだったのですが昭和39年以来37羽ものヒナが育ちました。このうち10羽が沖縄や姫路やその他の動物園へ行き、2羽が豊岡市の「ニホンコウノトリ保護センター」へ研究のため貸出され現在フライングケージの中には全部で27羽のシュバシコウがいます。朝早く、あるいは夕方にこの27羽のシュバシコウがいっせいに広いケージの中を飛ぶ姿はそれは美しいものです。

コウノトリはよくツルとまちがえられます。でもよく見るとツルよりもだいぶクチバシが長いですね。昔、日本にたくさんいたニホンコウノトリもよくツルとまちがえられ「松上のツル」として松の木の上の巣にいるコウノトリがよく絵などに描かれました。しかし、これはまちがいです。木の上に巣を作るの



②マナヅル。クチバシの長さを比較して下さい

コウノトリの寿命は20才位ですが、コウノトリの夫婦は一生仲良くくらしします。そして毎年同じ巣を使ってヒナを育てるので長い間使われている巣では毎年小枝などをつけたして大きくなり高さが2m、直径1.5m、重さが40kgもあるのが見られるそうです。1つの巣に3~5ヶ位の卵をうみ、オス、メス交代で熱心にだきます。そして28~31日後にヒナがかえります。コウノトリのひなは卵からかえって2週間位はあまり動きません。これに比べるとツルのヒナは1,2日のうちにヨチヨチと歩くことができま



③首を上下に振り、クチバシでカタカタと音を出す、シュバシコウの夫婦

はコウノトリだけで、日本にくるツルは決して木の上には作りません。必ず地面に小枝などを集めて巣を作ります。

す。このこともコウノトリとツルの大きなちがいのひとつです。かえったヒナたちを両親は本当に一生けん命に育てます。エサをあげたり水をのませたりはもちろん、暑いときにはヒナのからだに水をかけたり、つばさを広げて日かげを作ったりして、また寒い日や雨の日にはからだであたためたりしてたいせつにヒナを育てます。こうやって育てたヒナたちは2ヶ月位で親の元をはなれて自分自身で生活を始めます。

コウノトリとツルのちがいはもうひとつあります。ツルはよく「ツルのひと声」というように大きな鳴き声を出すことができますが、コウノトリは「シュー」という声以外には鳴き声は出せません。そのかわり首を前後にはげしくふりながら上下のクチバシを打ちならして「カタカタ」という大きな音を出すことができます。このカタカタ音で夫婦や親子の愛情を表現します。



④エサのドジョウを食べにあつまったシュバシコウ達

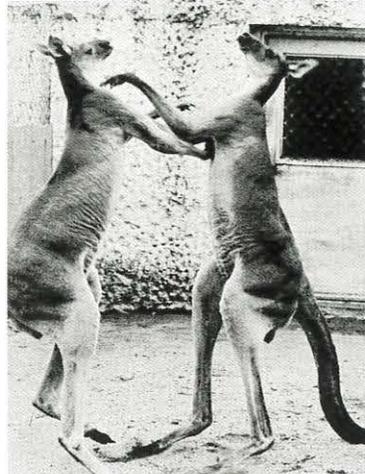
そろそろ涼しい秋風が立ちはじめた天王寺ですが、今日も園内ではシュバシコウの出す「カタカタ」という楽しい音がひびいています。

(飼育課 長 瀬 健二郎)

獣医室から ④

◎カンガルーの白タビ

当園にはハイロカンガルーはオス2頭、メス1頭、子供1頭の計4頭いるのですが、7月号でもお知らせしましたように、メスと子供を別室に収容し、オス同士を一緒にしています。オスの2頭の内、少し大きい方がボス格でケンカをしても優勢でした。カンガルーのけんかというのは、ごぞんじのように後足としっぽで立ち上がり、互いにけとばしあう一種のキックボクシングみたいなものです。そのケンカの際にどうやらボスの方が両後肢の爪をはがしたらしく、かなり出血してしまい、少しはれあがって歩くのも痛々しげでした。ほうっておいては傷口が化膿しますので、8月25日に4、5人かかって押えこみ、抗生物質の注射と消毒、



包帯をしました。どうせ包帯はすぐにとってしまうだろうと思っていたのですが、このカンガルー君、歩きやすいのか包帯をかじり取ろうともせず、まきつけたままです。白い包帯がまるで白タビでもはいたような感じです。でもこのカンガルーは足の傷のため以前の強さもなく、ボスの地位を追われしょんぼりしています。餌に抗生物質をまぜて与えており、化膿さえしなければ早くよくなることでしょう。

包帯をしました。どうせ包帯はすぐにとってしまうだろうと思っていたのですが、このカンガルー君、歩きやすいのか包帯をかじり取ろうともせず、まきつけたままです。白い包帯がまるで白タビでもはいたような感じです。でもこのカンガルーは足の傷のため以前の強さもなく、ボスの地位を追われしょんぼりしています。餌に抗生物質をまぜて与えており、化膿さえしなければ早くよくなることでしょう。



◎ミドリガメからサルモネラ菌

サルモネラ菌というのは食中毒をひきおこす菌として非常におそれられている細菌ですが、今年の6月に広島県の呉市で子供2人と大人1人がサルモネラ菌に感染して食中毒症状をおこしたという報道記

事がありました。そしてこの感染源が実はペットとして飼っていたミドリガメだったということです。たしかにカメをはじめヘビ、ワニなどのハ虫類にはサルモネラ菌が常在していることは早くから知られていました。ただハ虫類の有しているサルモネラ菌が、人間に感染するかどうかは長らく疑問でした。しかしこの呉の事件でも分る通り、ハ虫類の有しているサルモネラが実際に人間にも感染し、下痢や高熱などの食中毒様症状をひきおこすわけです。この記事が新聞に出て以来、ミドリガメの寄付があいつぎましたが、飼育法さえきちんとしておけば感染の心配などありません。動物園ではハ虫類と入園されたお客さんは完全に隔離されており、感染の危険性は全くありません。一般家庭では手でふれたりして、もしそのカメがサルモネラを保有していた場合、非常に危険なわけです。ですからカメをさわったら必ず手を洗い、飼育槽の中の水のあとしまつはきちんとしなければなりません。これはヘビについてもいえることで、一昨年、当園に持ちこまれた野生のアオダイショウも半分近くがサルモネラを保有しており、隔離収容したくらいです。

◎動物園の集中豪雨

今年は日本各地で集中豪雨の被害が多いようですが、動物園でも8月7日、集中豪雨のため園内が一時的に浸水しました。30分ほどしかふらなかつたのですが、ものすごい豪雨のため下水などへの排水量をオーバーしてしまい、あふれた水が園内に流れこみました。事務所の前などは水深30cm位までになり土のうなど積もうと考えたほどです。カモシカ園では運動場一面が池みたいになり、シカやカモシカなどは歩きにくそうでしたが、反対にアヒルやガチョウなどは即席の池に大喜びというふう泳ぎまわっ



ていました。カンガルー舎の寝室もかなり浸水しました。カンガルーは非常に水に弱い動物だけに、水がひいた後の健康状態にもかなり気がつかいましたが、どうやら下痢もカゼもおこさず、まずは一安心でした。(飼育課 宮下 実)

夢が広がるショッピング…… 近鉄がお届けします



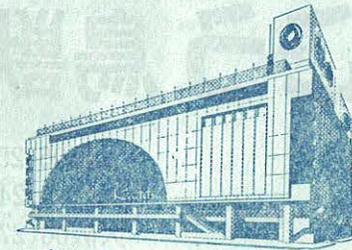
上本町近鉄 TEL.(06)779-1231



アベノ近鉄 TEL.(06)624-1111



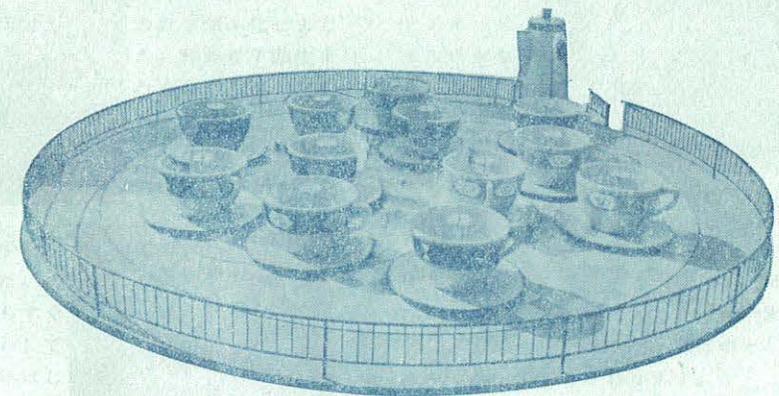
奈良近鉄 TEL.(0742)33-1111



東京近鉄



遊園施設委託経営・製作・販売

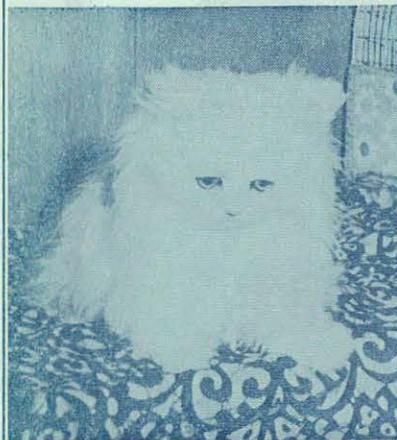


久竹 娛樂 株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

世界の猫、小鳥と愛玩動物専門店

はく製製造卸・直輸入動物取扱い店
各国、犬種・シャム猫・ペルシヤ猫



大阪市南区心齋橋1丁目38

⊗ そごう 鳥獣部

そごう百貨店屋上 直通TEL

大阪06(252)5497
(241)9146
大阪06(271)2221
内線 2554

動物園ニュース

☆オ1回サマースクール開催

8月1日～3日の間に小学生高学年を対象としたサマースクールが開かれました。応募総数336名中抽選で選ばれた30名が参加しました。初日の8月1日は自然史博物館で開講式の後、人間や動物の骨のしくみを勉強したり、スケッチをしました。2日目は動物園で6班に分れ飼育実習を行いました。動物



の観察、清掃、調理、給餌と飼育の実際を各係員から直接指導を受け、3日目は園内見学の後、研究発表、反省

会を行って終わりました。

☆まだまだ続くオメデタノ

◎7月24日にアグーチが1頭生まれ、今年はこれで3頭誕生です。

◎7月26日にはライオンが4頭生まれました。母親は出産、育児のベテランで、過去24頭の仔を育ててきているだけになれたものです。9月末頃には運動場に出して、お客さんにもお目見得できることでしょう。



◎8月2日にはスジオナメラが2頭、8月3日1頭、



5日1頭、24日1頭と計5頭ふ化しました。昨年も7頭生まれましたが惜しくも育ちませんでしたので、今年は強制さし餌を行って育てています。

◎8月4日にはオオヅルが1羽ふ化しました。ここ数年卵をうんでもすぐ親がつつついてこわしていたのですが、今年はしょうずにあたためてかえました。

(ふ化日数34日)



◎8月6日にはベンガルヤマネコが3頭出産しました。2頭は惜しくも死亡しましたが、残る1頭は元気に育っています。当園

では初めての繁殖です。

☆新着動物

今年もたくさん新しい動物が入ってきましたので御紹介しましょう。

◎ミーアカット4頭：南アフリカ産の動物でジャコウネコのなかまです。穴を掘って中にもぐりこんだり、後足で立ちあがったりして非常にあいきょうのある動物です。



◎クロカモシカ1頭(メス)：インド産のカモシカで、これでオス2頭、メス2頭になりました。

◎ヘビクビガメ1頭：南アメリカ産のカメで、名前のとおり首が非常に長いのが特徴です。普通のカメのように首をひっこめられず、横にまげます。

その他、ロシア産のリクガメ2頭、鳥類ではオキナインコ、ウロコメキシコインコ、クロカミンコ、ヒムネバト、カワウが各2羽ずつ、クロトキ3羽、セイケイ4羽が新しく入りました。



☆動物園開園60周年

当園は大正4年1月1日開園以来、今年で丁度満60周年を迎えました。これは日本では上野、京都について三番目の古い歴史をもつ動物園です。なお10月5日から、この60周年記念行事としてもりだくさんの催物を予定しております。

◎お知らせ

毎月オ三月曜日が休園日ですが、9月のオ三月曜日は敬老の日の祭りにあたるため、9月16日(火曜日)が休園日になります。

次号のなきごえは60周年記念特集号として10、11月号合併号でお届けする予定です。

なきごえ 昭和50年9月15日発行 (毎月1回15日発行) 第11巻第9号(通巻122号)

編集/大阪市天王寺動物園

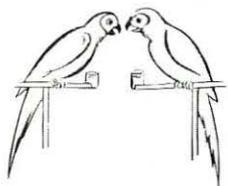
〒543 大阪市天王寺区玉水町2

発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳

電話 大阪 (06)771-0201

印刷所/株式会社 松村善進堂

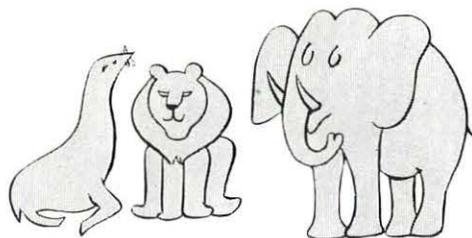
振替口座 大阪 37823
定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地
飼育場 神戸市葺合区神仙寺通三丁目一番地

電話(078)221-8195・221-1517
電話(078)241-3494



自然の
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員

小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・農本 武志
深井 和美・東 政宏・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・児玉 敏雄